

ある日突然襲ってくる地震。そのとき私たちはどんな行動をとるべきなのでしょう。また日ごろからどんな対策を心がけるべきなのでしょう。教育現場でできる防災教育を考えてみます。

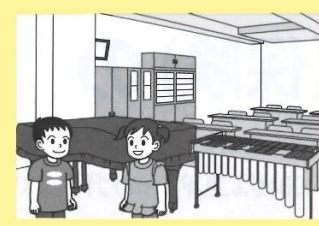
子どもも考える地震対策

避難訓練の「落とし穴」

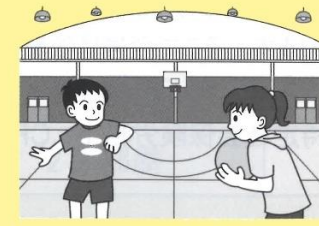
学校の防災教育といえば、避難訓練です。避難訓練を通じて、子どもたちは地震が発生したら机の下にもぐり、自分の頭や体を守ることを学びます。

さて、「教室の中にいるとき地震が発生した」

問題 A 地震発生時、どう行動しますか。その理由は？



【音楽室】



【体育館】

という前提で行われることが多い避難訓練ですが、もし、教室以外の場所、例えば、音楽室や体育館であれば、子どもたちはどのような行動をとるでしょうか（問題A）。これは「ジュニア防災検定」という小・中学生を対象にした検定で実際に出题された問題です。

子どもたちの解答を見て驚いたことがあります。まず、音楽室では「ピアノの下にもぐる」という答えが20%を超えていたことです。グラウンドピアノの場合、重さは300kgくらいとなります。ピアノの脚が折れたらつぶされてしまいますので、これは大変危険な行為です。

また、体育館では「中央に集まる」という解答が非常に多くみられましたが、なぜ中央に集まるのか、ほとんどの子どもは理由がわかっていないという状況でした。これらの結果は、何を意味しているのでしょうか。

子どもたちは、条件反射的に避難訓練を行っていて、行動の意味を理解していないということです。避難訓練の「落とし穴」といえます。

避難訓練にひと工夫を

単純に机の下にもぐる行動だけを教えると、ピアノでも何でも下にもぐってしまいます。ピアノの近くは危険なので離れなければなりません。また、体育館では、上からの落下物についてほとんど意識されていませんが、照明や天井などが落ちてくる場合がありますので、頭上への注意が必要です。

地震から身の安全を守るため、「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所に身を寄せて、揺れがおさまるのを待つ——これが基本です。防災教育では、行動の背景にある基本を教えることが大事です。避難訓練への理解もより深まる

避難行動のキーワード

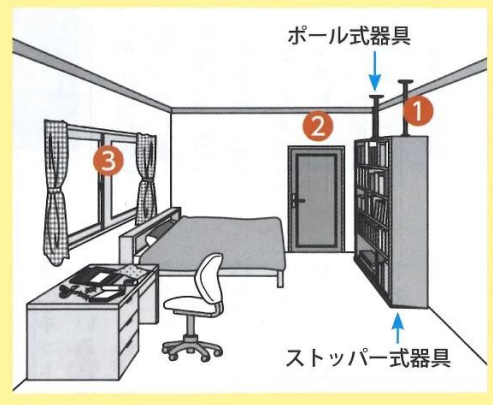
ものが、 空間に身を寄せる

ことになります。地震は、いつ、どこで発生するかわかりません。音楽室、理科室、昇降口、体育館など教室以外の場所でも避難訓練を実施してみたいかがでしょうか。ちょっとした工夫で子どもたちの応用力が増し、避難訓練のマンネリ化対策にもなるので、オススメです。

子どもでもできる地震対策

避難訓練は、地震発生時の行動を教えるもので、地震への備えという点では十分ではありません。地震では、壊れた家や倒れた家具の下敷きになって、多くの人が亡くなったりケガをしています。そうならないために、家の耐震化と家具転倒防止対策、つまり、家や部屋を安全にすることが地震への備えでは非常に重要な

問題 B 小学生向けの問題 ある子ども部屋の様子である。大きな地震が起きたとき、危ないと思う所はどこか。印をつけなさい。

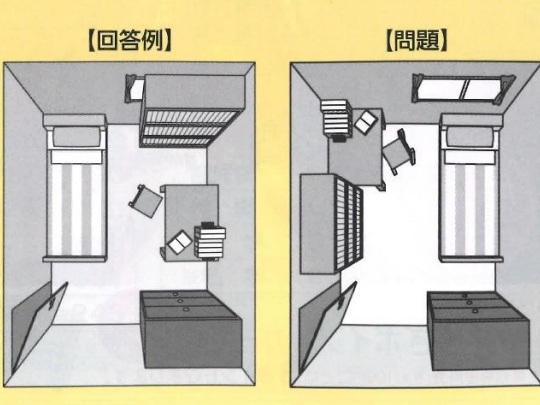


ポール式器具

ストッパー式器具

- 睡眠中は無防備なので寝室の対策が大事なこと。
 - 家具などが落下・転倒・移動しても寝ている場所は安全にすること。
 - 脱出口が確保できていること。
- 回答例のように家具の配置を見直すと、部屋の安全性を高めることができます。L字金具など専用器具で家具を固定したり、また、窓ガラ

問題 C 中学生の向けの問題 地震に備えて、部屋の危険な箇所を見つけ、安全な部屋となるよう、家具の配置を考えなさい。



【回答例】

【問題】

スにガラス飛散防止フィルムを張るなどあわせて行くと、より効果的になります。

家具の配置の見直しは、専用器具や道具を必要としないので、子どもでもできる防災対策です。まず「自分の部屋を安全にしよう」というテーマで防災教育に取り組んでみてはいかがでしょうか。なお、家具の配置図を書くときは、方眼用紙を使うと便利です。



笠間正弘
一般財団法人
防災教育推進協会理事
1961年宮城県生まれ。子どもたちが自ら考え行動する真の「防災力」を育むため、「ジュニア防災検定」や「防災寺子屋」などの防災教育事業を行っている。著書「わたしたちの防災」